四極大分

〈発行責任者〉高野　浩子
〈題　　字〉桑原　豊
〈発　行　所〉
大分市金池町2－7－21
パークサイド大分駅まえ302号
四極会大分支部
TEL（097）538－2462
FAX（097）529－6623

出陣を待つ「府内戦紙」園田　健治（大学14回）

コロナ禍でも盛大

～百周年に感動！　感激！

高野　浩子
（大分支部新支部長・大学34回）

五年前より取り組んできた大分大学経済学部創立一〇〇周年記念式典が先日終了しました。

この五年間の石川会長、野々下実行委員長を始めとする先輩方のご苦労を思い起こすと感慨ひとしおです。ビッグネーム揃いの経済トップセミナーを皮切りに、黒土始記念講堂整備、記念碑・門柱レプリカの建立。自遊展での力作の数々。どれも素晴らしい取組です。

前日の前夜祭、当日の懇親会がコロナ禍で断念せざるを得なかった事は非常に心残りではあります。また、式典に全国からお越し頂いた先輩方に十分おもてなしが出来なかった事、お席の誘導やお出迎えの際の歓迎の意など、キチンと出来なかった事が残念でなりません。この場を借りてお詫び申し上げたいです。

さて、記念式典後の大分支部総会にて大分支部長に就任した私ですが、今更ながらの重責に身が引き締まる思いです。大分支部長になるという事は四極会の副会長になるという事。しかも、地元大分市。全国の支部の中でも会員数は多く、支部運営も活発です。「大変な役を受けたね」と言われる事も多々あります。他にも中小企業家同友会の代表理事など、ありがたい事に役を受けさせて頂く事も多いのですが、立派でこの大役にふさわしい先輩が多くいる中、「なぜ私？」との思いはあります。比較的若手で女性、経営者でもあるため時間の融通も効く。次の一〇〇年に向けて、色んな観点から選んで頂いたのだと思います。幸い支部運営には若い時から関わらせて頂き、事あるごとに司会や会運営の裏方など多くの機会を頂いて来ました。「四極会愛」は諸先輩に負けない自負もあります。

私に課せられた使命は、女性会員を含めた多くの若手会員に、いかにして四極会に興味を持ってもらうか。同窓会活動がいかに有意義であるか、知ってもらう事だと思っています。

コロナも落ち着いて日常も少しずつ動き出しました。機会を捉えて支部運営も活性化して行き、認知度を上げる努力をして行きたいと思います。私一人の力では出来る事など限られています。

副支部長・支部理事の皆さん、諸先輩方にお知恵を頂きながら、会の活性化に寄与して行きます。

私が尊敬する田中康生大先輩がおっしゃっていた「楽しく無ければ、同窓会に人なんか集まらん」という言葉を胸に。楽しくて、また次も来たくなるような、そんな四極会大分支部にしていければいいと思っています。

皆様のご協力よろしくお願いします。

四極会 HP

四極会大分支部長
髙野　浩子氏　略歴

〈学歴〉
・昭和五十七年三月
大分県立別府青山高等学校卒業
・昭和五十七年四月
大分大学経済学部入学
・昭和六十一年三月
大分大学経済学部卒業

〈職歴〉
・昭和六十一年四月
株式会社　美装管理　入社
・平成三年三月
同社　結婚により退職
・平成三年四月
株式会社　ファインド・ニューズ　入社
・平成十八年一月　同社　退職
・平成十八年一月
株式会社　美装管理　入社
・平成十九年七月
同社代表取締役に就任

〈他団体役職〉
・平成二十九年四月
大分県中小企業家同友会代表理事
・平成二十九年六月
一般財団法人　四極会　理事
（女性部会初代会長、大分支部・別府支部副支部長）
・令和三年四月
一般社団法人　大分県ビルメンテナンス協会　副会長
・令和四年二月
大分県労働委員会委員
・令和四年六月
四極会大分支部長
一般財団法人　四極会　副会長

3期6年を振り返る

髙井　道晴
（大分支部前支部長・大学21回）

まさに青天の霹靂というような形で大分支部長をお引き受けして六年が経過しました。当初、心の準備ができていなかった私にとって、支部が行う数々の行事は驚きの連続でした。

県庁支部や市役所支部、そして大分銀行支部などは四極会の中の一つの支部であり、大分支部の下部組織ではないというのも、支部長をお引き受けしてしばらく経って分かったことでした。支部総会以外に職域交流会が開催される意味がやっと理解できたのです。支部総会は職域支部ごとに行われますので、職域交流会がなければ同じ大分市に住みながら、同窓生として顔を合わせることがないままに終わってしまうこともあるかもしれません。

このように様々な行事に追われながらあっという間に三年が過ぎました。その時に襲ってきたのがコロナウイルスです。とても怖い病気ということでしたので、ほとんどすべての行事を中止せざるを得ませんでした。

経済学部創立一〇〇周年行事に関しての準備は今から五年前に始まり、さあこれから後半の三年間で一〇〇周年行事成功に向けてのラストスパートだと意気込んでいた矢先のコロナでした。

後半の三年間において最も重要な活動の一つが募金活動です。大分市内の四極会の会員が多い企業に募金のお願いに回ったのですが、募金活動を通じて、若い会員と上野丘世代を中心とした私の先輩世代の会員との同窓会に対する温度差を強く感じました。

今年の総会の資料にもありますように、年会費を払ってくださっている会員の数が二十二～二十三回生を境に急に少なくなっています。年会費を払っている会員が一人もいない会期も多いのが実情です。このままでは四極会がなくなってしまうのではないかと心配になりました。

現在は学生の男女の比率が昔と大きく変わっています。私は二十一回生ですが、我々の年代の頃の女子学生は数パーセントしかいませんでした。ところが今は四十パーセントを超えています。

考えてみますと女性が同窓会活動を行うのは大変です。卒業して社会に出たての頃は仕事に追われます。ここまでは男女で変わりはありませんが、女性は結婚すると、仕事と育児と家事をこなさなければなりません。その上に同窓会活動となると、かなり厳しいものがあります。

しかし女子学生が半数近いという現実を考えると、多数の女性の参加がなければ同窓会が成り立ちません。次の一〇〇年を考えるにあたり、いかに女性が同窓会活動に参加してもらえるような仕組みや環境を作るのかということがポイントになると思います。

大分支部の活動計画に「一〇〇周年後の大分支部の在り方の検討」を掲げました。すぐに結論が出るとは思いませんが、大分支部の会員だけではなく、四極会としても考えていかなくてはならない重要課題だと思います。

大分支部の次の会長は髙野浩子さんです。四極会活動において大分支部は会員の数においても本部との距離の近さにおいても最も重要な役割が求められる支部です。その支部の支部長が女性になります。全国にある支部に対して、四極会のこれからの活動の方向性や意気込みを示すことに繋がるのではないでしょうか。

私は支部長を髙野さんに引き継ぎますが、相談役ということで理事の席においていただきましたので、これからも四極会の発展に頑張っていく所存でございます。何卒よろしくお願いいたします。

新支部長としての挨拶（平成28年）

四極鼎談

今回対談をしていただいたのは、大学十八回生です。いわゆる団塊の世代と呼ばれ、戦後の経済成長を支え、バブル期を経験された方々です。

（一同） 今年は昭和でいうと九十七年。昭和四十五年三月卒業だからもう五十二年もたっているのか。いつの間にか七十五歳だなあ。（感慨深げ）

◆なつかしの学生生活
―寮や部活、ゼミのことなど―

（柴尾） 入学した昭和四十一年ごろから学生生活を思い起こしてみようか。我々は、上野丘で三年間、旦野原で一年間の学生生活を送り、旦野原で最初の卒業生となった。前の年の卒業生（大学17回）は学生運動で卒業式がなかった。ところで、私は和田ゼミだったが、みなさんは？

（松井） 私は、交通論の田原ゼミ。

（橋本） 御手洗ゼミ。あんまり勉強せんかったなぁ。

（林） 山本ゼミ。農業政策だ。

（柴尾） 三年間の上野丘での学生生活の思い出が強い。旦野原での四年生のときは、就職活動であまり大学に行ってない。上野丘の木造校舎の油で磨かれた黒い板廊下のにおいが印象に残っている。

（林） 上野丘の思い出と言えば、自分は、まず寮生活だ。「鴻図寮」は汚なかったなあ。

（橋本） 寮と校舎が同じ敷地内にあったので、三年生や四年生の一部の人だが、丹前を着て寮から授業に来ていた。

（松井） カランコロンと下駄の音をたてて講義に出て、先生から注意された豪傑もいたなあ。

（柴尾） 私は自宅から通学していたが、何回か寮の友達の部屋に泊まった。最初は、とにかく汚くて眠れなかった。なにせ土間と畳の境目がわからなかったほどだ。

（一同） 昔は寮で、ストームというものがあって、夜、一年生などの部屋を先輩が回って、たたき起こし、しごいた。まあ、どこの大学でもあったがまさに嵐だ。

（松井） 勉強はそこそこで、ほとんど部活中心だった。友達に誘われ卓球部に入ったが、テニスと違い、雨が降っても体育館で締め切った状態で練習した。練習の前にはランニングあり、柔軟体操あり、素振りありで、とにかくきつかった。練習の前にパチンコに行くと、不思議といいタイミングで出る。十五時の開始に遅れると先輩に注意されるので、走っていった。

（柴尾） マンドリンクラブに入って何回か練習をしたが、手指が痛くなって、根性もなく、これは到底つとまらんと思い自動車部に変えた。先輩が横に同乗しているとはいえ、無免許で校内を運転練習した事もあった。今思えば危なかったなあと思う。体育館の壁に接触して穴をあけた奴もいたなあ。

自動車部は、ランニング等運動はしないが、一応運動部だったので、開学祭の各部対抗駅伝大会で走らされた。とにかくきつかった想い出がある。

（松井） 日ごろのランニング練習の成果で駅伝は二位だった。

（橋本） 中学、高校から剣道をやっていたので、大学でも剣道部。当然雨が降っても休みなし。授業には出なくても、先輩が怖いので、十六時の練習開始にはきっちり行った。

（林） テニス部は、卓球や剣道と違い、雨の日は休みだった。そのかわり、顧問の御手洗先生は厳しかった。いつか、その御手洗先生から、「おーっ林か。お前は下手やったのう。」と言われたことを覚えている。

（松井） 卓球部は、学芸学部との合同練習があった。経済学部は女性が少なかったので、この時ばかりはみんな朝からはりきって参加した。でも恋が成就したというのは、あまり聞かないかなあ。部活以外では卓球部の友人との三年時の沖縄旅行、四年時の、二週間にわたる夏の北海道旅行。テント持参の貧乏旅行が今でも懐かしく思い出される。

（柴尾） 各地を遠征したが、特に四年生の時、全国学生ラリー全国大会出場権を得て開催地の北海道に遠征し、併せて東北・中部・裏日本各地を自動車三台、部員十三人で旅行したのが思い出深い。

（柴尾） 総じて、みんなゼミの勉強はしっかりやったとは言えない。和田ゼミではゼミ旅行・先輩後輩との野球大会・家族合同運動会等をやっていた。上下のつながりがものすごく強かった。また、勉強はそこそこに、社会に出てから困らんように、酒の飲み方（かくし芸も）から教えてもらった。

（林） 山本ゼミは、しょっちゅう東洋軒に飲みに行った。

（松井） 錦町の先生の官舎に行って、奥さんの手料理で飲んだ。ゼミで勉強というより、そういう会が楽しい思い出となっている。

（柴尾） 私も先生の官舎によく飲みに行った。

（橋本） 部活の思い出と、同級生の思い出。卒業後、みんな元気なころ、春と秋の年に二回、大分と福岡のゴルフ対抗戦をよくやった思い出が残っている。大分十人福岡十人で二十人くらいか。福岡、熊本、宮崎、大分などで持ち回りでやった。最近はみんなちょっと元気がなくなったが。

◆就職とその後
―いろいろあった―

（林） 卒業後は大阪の松下電器に就職した。当時、大阪万博の開催期間で、行ってみたら座るところもないくらい人がいっぱいだったのをおぼえている。松下電器は、結局すぐにやめてしまったが。

（松井） 長男なので、県内に残ろうと思った。県内だと、民間では、銀行かトキハ。あとは公務員か。

（橋本） 金融機関の入社試験がはやくて五月に行われ、山口銀行に入った。当時、新産都の関係で新日鉄や昭和電工など大手企業の進出を背景として、銀行としても大分の人間を採用したかったのではないかと思う。成績は最後の方でも就職が決まったのは一番か二～三番。決まった後、大学の就職担当に、銀行に行きたくないと言ったら、後輩のためにそれは困りますといわれた。

（柴尾） 大学側から就職先が決まったら、後輩が困るので、絶対、他には行かないで、決まったところに行ってくださいと言われていた。民間は、七月ごろにはもう決まっていた。和田先生は、実業界に精通していたため、公務員（県庁ほか）でなく、民間に行きなさいと言われ大分銀行に入行した。

（松井） 銀行員になるかデパートマンになるか迷ったが、以前アルバイトをしてなじみのあるトキハに入った。ここでは、物流センター、婦人服や婦人肌着の売り場、バイヤーを経験したのち、どういうわけか経理部に配属された。そこで二十数年。資金繰りの関係から大分銀行にいた柴尾さんとも仕事上の関係ができ、それ以来の付き合いとなった。経理部では、財務諸表の作成をする必要から、「沼田嘉穂の簿記教科書」など、簿記を真剣に勉強した。当時は、売り上げも伸び、いい時期だった。

（橋本） 企業の業績も上向き。給料もどんどん上がった。

（柴尾） 大分の初任給は三万円。県外はいろいろ聞いてみると五～六万円くらいか。

（林） 当時、給料が入ったら毎晩飲みに行っていたものだ。

（橋本） 八幡支店にいたころ、業務は夜九時か十時ごろに終わり、それから飲みに行った。一時間もかけて帰宅し、翌日は時間どおり仕事と、よく身体がもった。

（柴尾） 今は、時間外労働の対応がとやかく言われるが、その当時は遅くまで仕事をして、そのあとよく飲みに行っていた。飲み代は上司先輩が配慮してくれた。

経済学部の先輩が職場にいると、いろいろな情報をもらうなど、気にかけてくれ相当助かった。やはり心強いものがあった。また、四極会の職場支部のお世話もしたが、すごく人を知ることができたと思う。

（林） 松下電器には同期生がたくさんいて、そういう意味では心強かった。

（橋本） 大分に帰ってきて、平倉建設に入り、営業に携わった。四極会の先輩が企業の要職などにいて、仕事上大いに助けられた。

（松井） 四極会トキハ支部で会費を集めるお世話をした。

私が在籍中、トキハの四極会では年一回の飲み会が開催され、交流が図られていたが、今もやっているのかな?

（橋本） 大学十八回生はまとまりがいい。今も月一回は飲み会やゴルフ大会を続けている。最近は、コロナ禍でちょっとストップしているが。始まりは何がきっかけだったかなあ。

（林） 松下電器をやめた後、甘木に戻ったが、仕事がなく、大分に来てしまった。失業保険をもらい、公務員試験の勉強をし、何とか大分県学校事務職員になった。十八回生の飲み会やゴルフに顔を出し、楽しく過ごしている。

（松井） 十八回生は定期的に集まることで結束がさらに強まったと感じる。

（林） 昔は同級生の人数も今よりは少なく、そのためよくまとまっていたのではないか。

大分大学に入学していろいろな意味で出会いがあった。感謝している。

◆百周年、その後に向けて

（松井） 四極会事務局で九十周年関連の事務に携わったが、今回の一〇〇周年は、そのときに比べ大学も相当頑張ってくれたと思う。記念式典や記念行事も無事に開催され、一つの区切りができた。また、黒土始記念講堂という大変立派な教室もできて今の学生は幸せだ。我々は、木造の上野丘校舎で学生生活の大半を過ごしており、その時を思えば隔世の感がある。

（柴尾） 何年もかけて準備をしてきたものであり、まずは、役員の方々をはじめ、携わった方々に敬意を表したい。

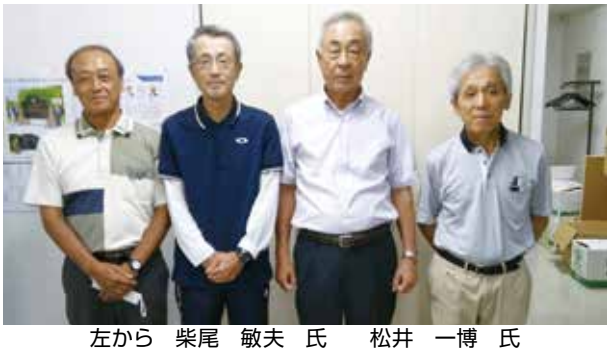
（松井） ホームページの三浦新会長就任あいさつに述べられているが、三年後には四極会自体の一〇〇周年がある。

（橋本） 今後気がかりなことは、うちの会社にも若い同窓が何人かいるけど、四極会にほとんど関心がないということだ。どこの学校もそうと思うが、同窓会や出身学校に対する思いが希薄になっていると思う。

（林） 集団としてよりも、次第に個人としての傾向が強くなっている。

（柴尾） 若い人は、あまり四極会に入るメリットを感じていないのではないか。世の中の大きな流れかもしれないが、このままでいけばじり貧となる。昔は就職の問題でも就職先に先輩がいると、大きなメリットがあった。難しいかもしれないが、言葉だけではなく、何か具体的な形でメリットを感じることができるように若年層にアピールする必要があるのではないか。

（松井） 親睦会の参加者も年代が偏っている。若い人を呼び込む行事が必要だ。世代間交流会で、大学三十一回生以降が構成メンバーとなる昭平会や女性の会である桃優会の方々が、より一層活躍されることを期待したい。



左から　柴尾　敏夫　氏　　松井　一博　氏
橋本　啓　氏　　林　賢治　氏

左手前　柴尾　敏夫　氏　　左後方　松井　一博　氏
右手前　林　賢治　氏　　右後方　橋本　啓　氏

―対談者プロフィール―

●柴尾　敏夫
（大分県立大分舞鶴高等学校）
職　歴
S45年　大分銀行入行
H14年　大分銀行退職
H25年　大分銀行関連会社退職
H27年　㈱リテールパートナーズ

●橋本　啓
（大分県立大分舞鶴高等学校）
職　歴
S45年　山口銀行入行
S53年　平倉建設株式会社入社
現在に至る

●林　賢治
（福岡県立朝倉高等学校）
職　歴
S45年　松下電器採用
S46年　大分県学校事務職員採用
H20年　退職

●松井　一博
（大分県立大分舞鶴高等学校）
職　歴
S45年　㈱トキハ入社　物流部配属
S49年　経理部異動
H12年　トキハわさだ店異動
H14年　トキハ退社
H14年～H23年
大分ケーブルテレコム㈱
H23年～H25年
四極会事務局（90周年担当）

支部活動報告

令和三年度事業報告（コロナ禍の支部活動）

令和三年度においても新型コロナウイルスの感染状況は収束せず、第四波、第五波さらには第六波と感染が拡大し、大分支部の活動も前年度に引き続き大幅な自粛を余儀なくされました。主要な事業の影響は、次のとおりでした。

・支部総会　懇親会を開かず簡素化して実施した。

・職域交流会　職域企業、職域支部の現役で働く会員が集まる交流会は、会食自粛等を考慮して中止した。

・学生と先輩との交流会　学生が対面形式による授業を避け、オンライン形式によることとされるなかでの実施は困難なため中止した。

「親睦会行事」

・囲碁大会　室内での長時間対陣を避け、中止した。

・麻雀大会　室内での長時間対陣を避け、中止した。

・幹事反省会　各親睦会の幹事が情報交換する会で、中止した。

なお、開催することができた親睦会行事は次のとおりです。

・第五十回ゴルフ大会（四月二十三日　於竹中CC　二十三名参加）

・第五十一回ゴルフ大会（十一月四日　大分東急GC　二十一名名参加）

・第三十四回登山会くじゅう山系大崩の辻（五月二十九日　十一名参加）

・第三十五回登山会　三重町・稲積山（十一月二十日　十四名参加）

・歩こう会（十一月二十六日　滝尾碇山～旦野原大分大学　二十三名参加）

「大分支部理事会」

令和四年四月二十八日にJ.COMホルトホール大分三〇二会議室で、高井支部長以下二十二名の役員が集まり、令和三年度事業報告及び決算、令和四年度事業計画及び予算並びに役員改選案を審議し、総会に提案することが承認されました。

「大分支部総会」

令和四年度は、経済学部創立一〇〇周年を迎え、記念式典と記念講演会の挙行日六月二十五日に併せて、ホテル日航大分オアシスタワー三階紅梅の間にて、開催しました。

記念祝賀会は、コロナ禍の影響で中止となり、支部総会も昨年度に引き続き会議だけの開催となりました。（出席者二十六人）

議案は、執行部の提案どおり承認され、役員人事については、平成二十八年から三期六年の間支部の発展に尽力された高井道晴大分支部長が退任し、新たに、高野浩子氏が大分支部長に選任されました。

なお、総会で承認された議案は、四極会ホームページの大分支部のページに掲載しています。

・令和三年度事業報告と令和四年度事業計画は「事業計画のページ」

・令和三年度決算、令和四年度予算は「会計報告のページ」

また、大分支部の役員改選に係る名簿は、本誌十九ページに掲載しています。

「令和四年度事業計画の概要」

●一〇〇周年記念事業の推進

・一〇〇周年記念事業の一環として本部実施する「自遊展」の開催支援

・記念式典をはじめ記念ツアー、ゴルフ大会などの関連行事への積極的参加

●各種交流会を開催し、会員相互交流の場を提供

・「職域交流会」の開催

・「学生と先輩との交流会」開催

・女性部会「桃優会」のバックアップ

●四極大分№二十九号の発行

●各種親睦会の開催

●一〇〇周年後の大分支部運営について検討

親睦会だより

ゴルフ大会

秋の四極会ゴルフ大会

恒例の秋のゴルフ大会が、昨年の十一月四日、二十一名の参加を得て、大分東急ゴルフクラブで開催されました。

新型コロナの感染状況もここ最近は収まりつつあり、加えて、天気にも恵まれ、絶好のゴルフ日和となりました。

新幹事の山田昌弘さん（大43）の司会進行のもと、高井道晴大分支部長（大21）の挨拶、村尾哲弘幹事（大7）のルール説明に続き、今回初参加の坂田孝行さん（大44）からも挨拶をしてもらいました。

この後、相良四極会名誉会長（大12）と高井支部長お二人の始球式により、熱い戦いが展開されました。

前回に続き、若手の方々の参加が目立ちました。

左から、宮川聡さん（大40）、池田至郎さん（大37）、山田昌弘さん（大43）、坂田孝行さん（大44）

プレー終了後の表彰式も山田幹事の司会進行で行われました。

結果は、相良名誉会長が見事優勝し、併せてベスグロ賞も獲得されました。

準優勝は、高井支部長、第三位は土森武志さん（大14）でした。

登山会

第35回稲積山登山会

塩月　靖浩（大学14回）

令和三年秋の四極会大分支部登山会は、豊後大野市三重町の稲積山で実施された。

日時：令和三年十一月二十日（土）

集合場所：稲積水中鍾乳洞駐車場

今回は、四極会会員十四名と霊山登山会十三名の合同登山となった。

整備された登山道

稲積山は豊後大野市の南部に位置する。一九六〇年頃までは牛の放牧に使われ、地元住民が野焼きするなど環境保全に努めていたが、過疎、高齢化などに伴い野焼きは中断、草木が伸び、荒れていたという。子供たちに自然の楽しさを教えるNPO法人大分自然塾の首藤理事長（日本山岳会東九州支部会員、元大分県山岳連盟会長）と塾のメンバーや地元住民、県山岳連盟の会員約二十名が「身近に登ることができる山として親しみ、山頂からの絶景を楽しんで欲しい」と二〇二〇年九月から登山道の整備に着手し、急坂などにはロープを張り、目印に赤色のテープを取り付けた（八月十日大分合同新聞掲載記事より）。

本日の登山会に地元出身の首藤理事長自らがメンバーの一人と一緒に同行ガイド役を買ってくれた。

急斜面を登って素晴らしい眺望

登山口は稲積水中鍾乳洞の敷地内にある。八時四十五分出発。

杉坂を抜け、今が見ごろの紅葉に迎えられ、石灰石の巨石が目立つ急斜面を登る。途中、群生の南天の実の赤色が目を引く。急登が続くが数か所にロープがあり助かる。十一時五分山頂着。標高589mの山頂は石灰石の重なる台地で、木々も伐採されて眺望が開けていた。

山頂からの眺めは実に素晴らしい。傾山、天神原山、木内山、桑原山、新百姓山、本谷山、祖母山、くじゅう連山、由布岳、鶴見岳等「大分百山」の山々や

宮崎県の大崩山、五葉岳も遠望できる。次回改定時には大分百山入りを是非とも期待したい。

下山に苦労

昼食後十一時五十五分に下山開始。枯れ落ち葉の急坂は滑りやすく、皆、散々苦労しながら十三時三十分「奥が迫」に到着。

首藤理事長の生家脇を通り、奥豊後の静かな山里散策を楽しみながら十四時、鍾乳洞の駐車場に到着、解散となる。

数名の会員は鍾乳洞見学も楽しんだ。

歩こう会

～滝尾碇山から大分大学旦野原キャンパスへ～

碇山

昨年の十一月二十六日（金）九時三十分にJR滝尾駅に二十一名が集合。幹事代表の渡邉新十郎さん挨拶の後、最初の目的地、すぐ近くの碇山に登りました。麓の説明板に、標高56mの大分県で最も低い山であると書いてありました。かつては島でした。山の名は、神武東征の折に碇を降ろしたとの言い伝えによります。

途中、松平忠直公とのゆかりを記した石碑や真田栗毛墓、大東亜戦争従軍記念碑等を見ながら登っていくと、頂上近くには熊野神社がありました。山頂からは由布岳、鶴見岳を背景にした大分市街地の展望が開けています。木山広喜さん（大10）のハーモニカで唱歌を合唱する一幕もあり、一時間弱で下山しました。集合写真の横断幕はいつものように木山さんが書いてくださいました。木山さんが参加される親睦会は味わい深いものになります。

滝尾～旦野原

滝尾から旦野原まで4・5kmが今回のメインコースです。住宅地の中を通り、大分工業高校の西側の旧国道を経て、JR敷戸駅の手前で国道10号に出ました。10号を約1・5km進むと大学入り口です。

平地を歩くのは意外に疲れます。

ようやくたどり着いた大分大学旦野原キャンパス入り口はきれいに整備されていて、思わずカメラに手がいきます。学生が行き来する緩い上り坂を歩いて経済学部棟前に着き、JRで先回りしていた三名の会員と合流したのは十一時四十分でした。

旦野原キャンパス

経済学部では、思いがけず高見博之経済学部長と吉野勉事務長が出迎えてくださり、お二人の案内により、一〇〇周年記念事業で整備された黒土記念講堂を見学しました。総務係の福丸さんも対応してくれました。

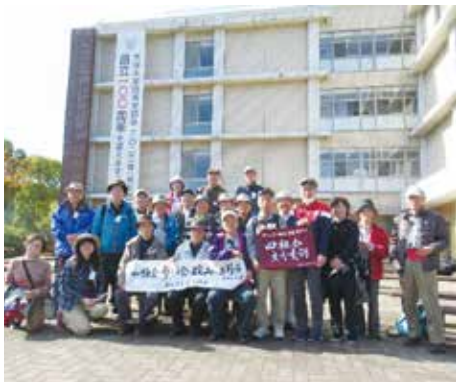
屋外に出て、九十周年記念公園の前で集合写真。ここには、上野丘校舎跡地に残る門柱のレプリカ及び一〇〇周年記念碑の設置が予定されています。記念碑には木山広喜さんが揮毫されます。人工芝で整備された一〇〇周年記念公園を見て学生食堂へ。途中、図書館や教育学部棟など、広いキャンパスに広がる建物群を目にしながら、上野丘校舎時代に比べて今の学生は恵まれている、羨ましいとの声が聞かれました。参加者の多くに

とって、初めて足を踏み入れるキャンパスです。

食堂では、学生に混じって各自好みの料理を取り、歩いた後の空腹を満たしました。食後は、自由解散。十三時前に本日の歩こう会は終了しました。大学構内にバス停のある大分バスに乗る人、大分大学前駅からJRで帰る人と分かれました。

新型コロナ感染予防のため貸切バスを使わなくなって四回目の歩こう会でした。前回は別府駅集合で別府の桜めぐり、その前は大分駅集合で大友氏の歴史散策、その前は鶴崎駅集合で肥後藩領時代の鶴崎を偲びました。それぞれ、大分支部会員にとって近場ながら、未だ知らなかったことに知見を深めました。「無知の知」です（学生時代に哲学で学びました）。コロナ禍で多様な歩こう会の在り方を経験したことにもなります。

楽しい会になったのは、毎回、事前に下見をし、参加者を安全にリードしていただく三名の幹事、渡邉新十郎さん（大16）、松井一丸弘美さん（大16）、松井一博さん（大18）のお陰です。ありがとうございました。



四極会芸術文化祭「自遊展」

第七回自遊展開催

令和三年十月四日～十日の一週間、大分市のアートプラザで第七回芸術文化作品展示会「自遊展」を開催しました。

三十四名の会員・学生が八十点の作品を出品し、会期中に四〇〇名を超える四極会員、市民が来場されました。出品者は四年の六月、一〇〇周年記念式典と同時に開催する予定の自遊展に意欲を燃やしていました。

五十号の迫力ある絵画、植物や四季の写真、県美展にも出品された書、彫る行程ごとの能面の半製品、ふっと笑わせられる川柳など多彩な作品が観る人を魅了しました。

第三回 大分の歌音楽祭

2021年度 大分の歌音楽祭 初めてのオンライン開催

経済学部社会イノベーション学科
四年 佐保 太晟
バリクディオン・レイス

大分の歌音楽祭は、三年前に行われた「おおいた大茶会」の開催をきっかけに、四極会大分支部が主催する自遊展（芸術文化祭）の一環として始まったもので、経済学部社会イノベーション学科・渡邊ゼミが中心となって企画・運営をしています。

三度目の開催となる二〇二一年度の「大分の歌音楽祭」は、今年（二〇二二年）迎えた経済学部創立一〇〇周年記念の最終プレイベントとしても位置づけられていました。

音楽を通して「人々に繋がってもらいたい」という、初回開催の先輩たちの思いに加えて、今回は「大分大学経済学部をもっと広く知ってもらう」ことも掲げました。また、コロナ禍によって出演の機会を奪われた方々の想いを届ける場を提供したい、幅広い世代に音楽の輪が広がってほしいという気持ちもありました。

当初、開催場所は、前年と同じ、〝お部屋ラボ 祝祭の広場〟を計画していましたが、コロナ感染者が増え始め、学内外の様々な規制が解除されない中、音楽祭を実施してよいものか、実施するとしても多くの人が集まる大分駅前で開催してよいものか…ゼミ生たちが集まれる夜間に、オンラインで何度も会議をしました。時には深夜までかかることもあり、ヘトヘトになりながらも真剣に検討する日が続きました。なかなか結論が出ず、本当に期限ギリギリで、「今回の音楽祭について、実施はするが、屋外・対面での開催はせずオンラインで、SNSを使い動画配信も行う」ということになりました。

それからが大変でした。それまでの計画がほぼ白紙となり、企画を設定し直し、諸変更を関係各位に伝え、動画配信に関わる準備など、とても忙しい時期もありましたが、様々な方々の支援や指導のもと、そしてなによりゼミ生たちが一丸となり取り組んでいったことで、音楽イベントのオンライン開催というゼミ初の挑戦を無事に終えることができました。

さて、今回の音楽祭ですが、二〇二一年一〇月十六日（土）には、「開催セレモニー」と銘打って、Zoomオンライン（生中継）にて、歌や踊り、トークやクイズ、抽選会（ご協力機関から提供された賞品などで）を行いました。生演奏の披露は三組です。「歌声喫茶」の波多野典子先生は吉丸一昌作詞の「早春賦」など大分にゆかりのある名曲をピアノで伴奏、その場のお客様と一緒に素敵な歌声を届けられました。また、津久見音楽友の会は、同地区出身のデュオLULICARAとコラボ、昭和歌謡や「世界に一つだけの花」など幅広い世代に向けた演奏を披露されました。さらに、経済学部の矢野ゼミからは、「大分の魅力を伝えたい」という思いで作られた大分弁を用いたキャッチーなメロディーのオリジナル曲「それいけ！おおいたんし！」（レゲエ）の紹介でした。

この日に披露してくださった演奏他、団体のパフォーマンスを、その後順次YouTubeに投稿し、現在もご覧になることができます。音楽の持つ素晴らしさ、そして大分の魅力を知るきっかけになれば幸いです。

コロナ禍による試行錯誤・葛藤の日々が続きましたが、多くの学びと経験を得ることができました。ご出演・ご関係各位、Zoom参加やYouTube閲覧の皆々様には、ゼミ生一同心より感謝申し上げます。

①経済学部・黒土始記念講堂からZoom配信

②レイス君の取材対応（J:COM）

③集合写真

世代間交流

成和会

「成和会の追想」

会長　山口　勇（大学10回）

大分大学経済学部創立一〇〇周年記念式典を期に、三十四年の長きにわたり開催されてきた成和会は、数多くの知的遺産と良き想い出を残し、幕を閉じることになった。

その例会回数は一八八回を数えたのである。この会は、大分市内に在住または勤務する経済学部卒の経済人の集まりであった。二か月に一度の会期で開催されてきた勉強会兼懇親会は、大学第一回卒から第一〇回卒の経済戦士を中心に構成されていた。会員は、業種に偏らず、各業態、各企業、各自由業を含め、バランスの取れた多士済々の友好団体であった。中心会場は、ホテルクドウ大分の社長が、会員だったこともあり、常設会場のように、勉強会場と懇親会場を特別料金で利用させていただいた。ほとんどの講師は、懇親会までお付き合いされ、お酒の勢いも手伝い遠慮のない会員から、次々と矢の質問や意見を浴び、困惑の渦中で戸惑う姿もよく見られた。

この成和会の先輩的存在であった高商、経専卒のグループに、金曜会があった。しかし高齢化の波は会員減少をもたらし、成和会に合流する運命となり、平成二十二年八月例会で、金曜会は成和会に合流し消滅した。成和会は、昭和と平成の合成語であるが、当成和会も又金曜会同様に年々会員は減少傾向を辿ることになった。会員増強のため、四極会本部の役員を会員に、という案が浮上、会長をはじめ幹事まで正会員となり、若いメンバーの参加で、会は増強された。約三十名前後の会員は、欠席会員が増加の傾向にあっただけに、本部役員の参加は、人数のみならず若返り効果もあり、

会の活性化とチーム力の強化になった。しかしこの体制も年とともに次の新時代の到来となったのである。二年前より、金曜会が成和会と合流したと同様、成和会も、若い山水会と合流の話が持ち上がり、その旨の申し入れがなされてきたが、コロナ禍のため中断を余儀なくされてきた。成和会自身も、一〇〇周年記念時までの存続を全員で申し合わせ、令和四年四月の例会が、「情報交換とふぐ料理の会」を最後に締めの会となった。名残惜しむ会は、皮一枚を残す形で別名「成和会OB会」の誕生となり、本流は「山水会」の加入希望者となって、閉会したのである。時の流れの無常さと、世代交代の現実を感じる今日この頃である。

昭平会

『一〇〇周年便乗企画リアル昭平会』開催

山田 昌弘（大学43回）

二〇二〇年二月のリアル開催以降、計八回オンライン昭平会をする毎に「次回こそリアルで集まろう！」と毎回宣言してはコロナウイルスに阻まれてきました。六月中旬から下旬にあたり県内の感染者も低調になり、一〇〇周年記念式典も無事に終えたのを機に開催準備に取り掛かりました。

今回の昭平会の目的は二つです。まず、約二年半の間に還暦を迎えられた先輩のお祝いのため、次に昭平会メンバーの髙野浩子さん（大34）が新大分支部長に就任し、昭平会が四極会で重要な役割を担うことになったことをメンバーに周知するためでした。

七月に入りコロナ感染者が徐々に増え始め、マリーゴールド迎賓館の坂田孝行支配人（大44）と結婚式開催の状況や感染拡大予防策の確認を綿密にとりながら準備を進め、勢いも大事なので『一〇〇周年便乗企画リアル昭平会』と銘打って参加者を募りました。

そして、七月十八日（祝）十六時より結婚式場「マリーゴールド迎賓館」（大分市下郡）で、十六名の会員参加によりリアル昭平会をスタートしました。

会の冒頭、髙野浩子新大分支部長より就任ごあいさつと決意表明を述べていただきました。乾杯の発声は、直近のリアル開催で還暦祝い主役の山﨑敦夫さん（大31）にお願いをして、後を追ってきた還暦会員にお祝いの言葉をいただきました。テーブルには結婚式さながらのフルコース料理で舌鼓を打ち、アクリル板越しに飛沫はシャットアウトされるものの久しぶりに会員間の会話も弾みました。オンラインも良いけどやはりリアルですね。そしていよいよ還暦を迎えた六名の先輩にお花をプレゼントしコメントをいただきました。まだまだ夢に向かって汗を流すぞ！という笑いあり涙なしの熱いメッセージでした。少しずつ、昭平会も年代が上がってきたことは間違いありません（笑）。

最後は、中庭で記念写真撮影をして夕暮れのマリーゴールド迎賓館を後にしました。

国政だより

安倍元総理を偲んで

参議院議員 衛藤 晟一（大学18回）

最初に、コロナ禍という大変な時期と重なりましたが無事、大分大学経済学部創立一〇〇年記念事業が成功裏に終わりました事を心よりお慶び申し上げます。

さて、七月の参議院選挙で、私は大分県第一選挙区（大分市）の選挙対策本部長としての役職を果たし選挙に勝利しました。

しかし、安倍元総理の銃撃事件があり驚きと悲しみ、そして信じられない思いが今も続いています。

安倍元総理とは「志」を同じくする同志として長い間一緒に活動して参りました。

古くは、故中川昭一さんと三人で「歴史教育を考える議員の会」を立ち上げ自虐史観で歪んだ歴史教科書の間違いを専門の先生方と協力し訂正、提案した事を懐かしく思い出します。

二〇〇六年（平成十八年）に「戦後レジュウム（体制）からの脱却」を掲げて第一次安倍内閣が発足しましたが、このような理念を掲げる初めての内閣としてマスメディアからは総反撃（産経を除き）を受けました。それでも「教育基本法の改正」・「防衛庁を防衛省に格上げ」・「国民投票法の制定」等重要案件を次々と策定しました。しかし、難病のため二〇〇七年（平成十九年）九月に退陣を余儀なくされました。

『安倍は終わりだ！』と随分たたかれましたが私は日本再生の「志」を持つ議員を集め「創生日本の会」を作り幹事長としてハードスケジュールでの勉強会を開催してきました。

世界的な戦略家、E・ルトワック氏は『安倍氏は戦略を本能的に理解し生まれつき戦略的な思考を身に付けていた』と評価しています。

安倍さんは当時から平和を維持するために中国の危機にどのように対応するか！米国・欧州・東南アジア・世界をどのようにして味方につけるか！戦略的に真剣に考えていました。（第二次安倍内閣以降はその戦略に基づいて世界での俯瞰外交を展開していたと思います。）

二〇一二年（平成二十四年）に

民主党政権の混乱のあとを受けて「日本を取りもどす」をテーマに第二次安倍内閣がスタートしました。私は国家重要問題担当総理大臣補佐官として数々の諸問題に対応させて頂きました。

まず経済不況を克服するアベノミクス（三本の矢）政策で景気を回復させました。次に韓国の慰安婦問題を解決する（国際社会が証人となる国と国との約束で〝最終的かつ不可逆的〟な合意をしました）。これは韓国の政権が代わって蒸し返すと国際社会から不信感を持たれる結果となります。

中国の覇権膨張主義に対しては「自由で開かれたインド・太平洋構想」を提案し、米・豪・印・日の「クアッド」として実を結びました。

その他、日米の連携を深める「安全保障関連法案」、憲法改正の為の「改正国民投票法」等、大きな壁が立ち塞がる中で実現させました。

二〇一九年（令和元年）に国務大臣を任命される迄、約七年弱補佐官として活動できたことは今までの人生で最も意義ある時期だったと思い返しています。

大臣としては日本の将来に影響する「少子化問題対策大綱」を作らせて頂きました。

安倍元総理の思い出は尽きることがありませんが、その「志」を継承し頑張って参りたいと改めて決意しています。

四極会の皆様の更なるご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

県政だより

おおいたの自然の魅力
～一度の人生、感動の還暦富士登山～

大分県議会議員
麻生　栄作（大学32回）

パンデミックやロシア・ウクライナ戦争によって、我が国の食料やエネルギーの脆弱性が浮き彫りとなりました。気候変動が追い打ちをかけ、価格高騰は深刻です。本県の農林水産業の衰退は危機宣言が発せられる有様です。先端技術の活用や宇宙産業の挑戦ばかりが注目されがちな本県ですが、農林水産業を犠牲にして、命は守れません。食べることは生きること、東大院の鈴木宣弘教授が、安全な食料を生産、流通し、消費する人達が支えあい、子や孫の健康で豊かな未来を守る為には、「今だけ、金だけ、自分だけ」という社会風潮からの脱却が必要と主張されているように、百姓の倅の私は、県議会議長経験者として、食料・農業・農村政策を最優先課題とします。

また、昨年には、世界遺産『屋久島』を訪れ、縄文杉の森とそこから流れる川でリバーカヤック、豊かな海でウミガメと一緒に泳ぎシュノーケリングを楽しみました。この夏は、還暦記念に世界遺産・富士山最高峰3776m迄登って来ました。人生と同じで、登るより下山で苦しみました。いずれも人生観が大きく変わる貴重な体験となりました。それもプロのガイドのお陰でした。

大分県には、二つの国立公園、世界農業遺産もあり、二つのジオパークとさらにユネスコエコパークもあります。自然体験型ツーリズムには事欠きません。認証制度で育成するアウトドアガイドと共に、自然体験型の新たな旅行ニーズを発掘するにとどまらず、新たな働き方、生き方につなぐ、暮らしの中の技術や知恵を次代に伝承することが大事です。「百年後の大分の為にできる」大切なことは、取り返しのつかない変化を起こさないことです。引き続き、同窓皆様のご指導とご支援をお願い申し上げ、近況報告とさせて頂きます。

暮らしに笑顔ある、大分の未来への発展に向けて

大分県議会議員
木田　昇（大学38回）

皆様のお陰をもちまして、県政二期目の活動を無事に進めることができております。様々な分野・職域で活躍しておられる同窓の皆様に対し、心から感謝と御礼を申し上げます。

コロナ禍が長引き心配していましたが、経済学部創立百周年記念式典が盛大に開催できましたことに心からお慶び申し上げたいと存じます。一部には中止せざるを得ないイベントもありましたが、式典を契機に四極会の会員相互の「絆」を深め、大いなるレガシーを次代へ繋ぐことができたのではと感じたところです。

さて、本年七月の参院選のさなかに安倍元首相が凶弾に斃れるという衝撃的な事件が起こりました。民主主義を実践する選挙演説中の政治家を襲撃するという、誠に許し難い事件でした。

過去には、一九三〇年に濱口雄幸が、三十二年の5・15事件では犬養毅が、また三十六年の2・26事件では高橋是清と斎藤実の二人の首相経験者が同時に殺害される事態となりました。その後、三十七年の盧溝橋事件を契機に日本は中国と全面戦争へ、そして四十一年の真珠湾攻撃で太平洋戦争へと突入しました。

背景は異なるとは言え、ウクライナ情勢や現下の東アジアでの緊張の高まりを見つつ、この様な歴史を振り返ってみると大きな危惧を抱かざるを得ません。憲法前文に記された「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないよう」とする決意のもと、国民の安全・安心を守るのが政治の責任だと考えます。

県政においては、目下のコロナ対策に全力を傾注することはもちろんですが、経済・観光再生や宇宙ビジネスの創出など、ポストコロナを見据えて大分の地方創生を力強く前へ進めなければなりません。公務員の職を辞して県議選への出馬を決意してから早いもので八年が経ちますが、初心を忘れることなく研鑽を積んで大分の発展に身を尽くして参る所存です。

四極会の発展と会員皆様のご健勝を祈念するとともに、引き続きご指導とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

市政だより

少子化対策について思う

全国市議会議長会相談役
大分市議会議員
野尻　哲雄（大学24回）

四極会大分支部の会員の皆様、ご無沙汰しています。令和四年に入って新型コロナウイルス第六派をクリアする間もなくオミクロン株（BA5）の猛威にさらされ日常活動をセーブしながら、また、熱中症に気を付けながらお過ごしのことと拝察いたします。

私は、五月開催の第九十八回全国市議会議長会総会におきまして、議長四年表彰を受けるとともに引き続き議長会相談役に就任いたしました。これからも地元大分市民の要望実現のために、また、国に対して全国市議会議長会の要望実現のために頑張って参ります。

皆様のご指示ご支援宜しくお願い申し上げます。

国が「こども家庭庁」の創設を決定したことをうけて、地方六団体は次世代を担う「人づくり」として国に対して要望項目をまとめ、○幼児教育・保育の無償化○子ども・子育て支援制度の「量的拡充」と「質の向上」○認可外保育施設の質の確保・向上に向けて○不妊治療の支援について○「児童虐待防止対策体制総合強化プラン」について○子どもの貧困対策と自立支援について○少子化対策の抜本強化に向け、無利子奨学金の充実、多様な保育サービスの拡充、子どもに関わる全国一律の医療費助成制度の創設、小学生以上の子どもの医療費助成等に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措置の全面的な廃止等を図るとともに、「地域少子化対策重点推進交付金」の拡充と運用の弾力化など、子育て支援の充実や地方単独事業に対する地方財政措置の充実を図ること等々について骨太方針として提出いたしました。

子ども・子育て支援の対策はこれで良しとしますが、少子化対策の抜本的な対策についてはこのような対策で解消されるとは思われません。平成元年の子どもの出生数は一二二万人でしたが、平成二十七年には一〇一万人、さらに、令和三年には八十一万人とさらに少なくなっています。コロナ禍の影響もありますが令和三年の結婚数も五十万組と過去最低を記録しています。こうした少子化の流れを断ち切るには、若い世代の雇用の安定を確保することが最も大切であると思います。若者が夢を持ち、希望に胸を膨らませて生きる社会の実現に向かうには、非正規雇用の解消に舵を切るべきと考えます。

平成二十五年度の厚生労働白書によれば、男性が正規雇用であれば、三十四歳までに59・3％が結婚しているが、非正規雇用の場合28・5％しか結婚していません。経済状態が不安定であることが晩婚化を招き、少子化につながっています。

非正規雇用の思いとして、「結婚はしたいが自分たちの生活重視のため子どもはいらない。」傾向が見受けられます。

また、子どもの貧困についても、子育てに従事する若い世代の雇用の悪化と関係が深い。父親が非正規雇用の場合、子どもの貧困率は33・4％、父親が正規雇用の場合は6・7％であります。（公財・東京市町村自治調査会「基礎自治体における子どもの貧困対策に関する調査研究報告書」平成二十九年）

若者が安心して働ける、安心して子育てができる社会に構造的変革をしていかないと日本の将来も地域社会の将来も希望が持てません。日本の雇用環境の悪化を招いた小泉政権の呪縛を一刻も早く断ち切るべきであると考えます。

新社長紹介

地域に貢献できる企業であり続けたい

大分交通株式会社
代表取締役社長
安部　喜代治（大学27回）

思いがけず、今年四月一日付で大分交通㈱の社長に就任いたしました。

弊社はおかげさまで今年創業一二六周年を迎えました。明治の中頃、九州で初めて別府～大分間に電車を走らせた会社が弊社のルーツとなっています。

これまでに、電車や鉄道、ホーバー、バス、タクシーなど公共交通事業を展開してきましたが、時代の趨勢により、現在では、大分交通グループでバス・タクシー事業を中心に、ドコモ携帯電話販売事業、情報システム事業、不動産事業、メンテナンス事業、車両整備事業などを行っています。

私は入社以来、これまで何度も「別大電車が今も走っていたら良かったのになぁ」「耶馬渓鉄道が懐かしいな」「大分ホーバーどうして止めたんかい」といったようなお話を本当に多くの方からお聞きし、その都度、弊社の歴史の凄さを思い知らされていました。

私自身、社長に就任してようやく半年になります。そういった弊社の歴史、社会的信用の大きさや諸先輩方のご努力を思いますと、重責を痛感し、今も職責を本当に果たせるのかと自問自答の毎日です。

そのような中ありがたいことに、仕事先でもプライベートでも実に多くの四極会の皆様に出会い、事あるごとに気にかけていただき、またご支援をいただいており、それが今も仕事の上で大きな救いとなっています。

さて、バス事業を取り巻く経営環境ですが、人口減少や自家用車などの普及により、バスの輸送人員は昭和四十年代後半頃から慢性的な減少傾向が続いています。また、ここにきて、運転士不足、コロナ禍、燃料をはじめとする原材料価格の高騰などの影響を受け、企業努力や自助努力だけではどうにもならないような状況になってきています。

さらには、弊社の主要バス路線であります、大分市と大分空

港を結ぶ大分空港線と競合するホーバーフェリーが、令和五年度中に就航予定となっており、これまで以上に厳しい状況が続くものと考えています。

弊社はこれまで、公共交通事業を通して地元大分に貢献してまいりました。今後もさらに厳しい経営環境に置かれようとも粘り強く、関係自治体・関係機関・地元の皆様と協議を重ね、理解を得ながら交通事業者の使命である「安全第一」を追求し、一日でも長くバス路線の維持存続を図りながら、これからも地元大分の皆様に必要とされ愛される交通事業者を目指すとともに、微力ではありますが、バス業界の今後の発展に全力を尽くしてまいります。

どうか四極会の皆様には、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

百周年の先へ共に「新たなる成長」を！

大分信用金庫　理事長
木村　浩樹（大学36回）

令和四年六月二十八日に大分信用金庫の歴代第五代目の理事長に就任いたしました。

大分信用金庫は、大正十一年十一月十四日に大分市にて創業し、今年一〇〇周年を迎えます。大分大学経済学部と同級生ということになります。

このような歴史的な節目となる年に経営の舵取りを担うことは、私にとって重責ですが、地域の皆さまから必要とされ、職員が働きがいを感じる、「明るく活力ある信用金庫」であり続けるよう、考え行動していく所存です。

信用金庫は、銀行のような「株式会社」ではなく、地域の出資会員による「協同組織」で、地域で集めた資金を地域で必要な方に融通する「相互扶助」の精神で成り立っています。営業する地域が限定され、融資は出資会員（資格は地域内の住民と中小企業等）に限定されている、正に地域と運命共同体の金融機関です。

金融機関を取り巻く環境は、金融緩和策による低金利の影響等により、収益力が低下しており、「いかに収益を上げるか」に頭を痛めている状況ですが、当金庫の基本方針には「利益を得たいが、他人の利益を先にする」という言葉があります。赤字で経営に四苦八苦していては、取引先を守れないが、利益はあくまでも取引先や地域を守り、サービスを継続する手段であることを示しています。

つまり、私たちの業務の目的はあくまでも「中小企業の健全な発展」「豊かな住民生活の実現」「地域社会繁栄への奉仕」（信用金庫の三つのビジョン）であるということで、このことは不変の理念として、若手職員にも改めて理解してもらいたいと思っています。

地域経済は、人口減少や新型コロナウイルス感染拡大等により、年々厳しさを増しています。

しかし、厳しい経済環境であるからこそ、「信用金庫の出番」であるとも言え、信用金庫の使命をしっかりと果たすことが求められていると思います。

信用金庫に求められる役割は、従来からの融資機能だけでなく、販路拡大や事業継承、ＤＸ等多岐にわたる経営課題への適切な支援など、より幅広くなっています。

これまで守ってきた基本的な経営方針は堅守しつつ、環境変化への柔軟かつスピーディーな対応を行う必要があります。

また、経営資源で一番大切なものは「ヒト」です。地域に必要とされる魅力ある「人財」を育成していくことが経営者である私に課された使命だと思います。そして、当金庫が「魅力ある人材の宝庫」になることを目指していきます。

難題は山積していますが、総合力を高めて、より魅力ある「おおいたづくり」をやっていきたいと思います。

皆様方には、今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

職場だより

地元大分に貢献する総合物流業者として創業六十二年

鶴崎海陸運輸株式会社　人事部
増羽　梨菜（大学68回）

鶴崎海陸運輸株式会社　人事部の増羽梨菜と申します。

平素より四極会会員の皆様には大変お世話になっております。ここで弊社につきまして紹介をさせていただきます。

弊社は本社を大分市三佐に構え本年四月で創業六十二周年を迎えました。様々な変化の中で常に進化し、時代を先取りする会社として革新と挑戦を続け、現在では八部一室にて幅広く地元大分に貢献すべく、地域に根ざした事業活動に取り組んでいます。令和二年四月には五十年振りの建替えとなる新社屋も完成しております。

天然の良港であり九州の東の玄関口と言われる大分港、その背後地に日本の製造業を代表する企業が多く進出し大分臨海工業地帯を形成、大分市は国内有数の工業都市となっています。その歴史の黎明期に創業し、各企業様のパートナーとして構内物流業務の受託、港湾荷役や貨物輸送をはじめ、営業倉庫、船舶代理店、ポートサービス、石油販売事業などを順次展開して参りました。通関業では平成三十年に門司税関管内の大分県地場企業として初めてのＡＥＯ制度（貨物のセキュリティ確保と法令遵守の体制が整備された事業者に対し、税関手続の緩和・簡素化を提供する制度）における「認定通関業者」の認定を受け、社名のとおり海陸一貫の総合物流会社として成長を続けています。

また、鶴崎海陸運輸を主体とした「つるかいグループ」

は現在七社（エスティケイテクノロジー㈱、鶴海運輸㈱、㈱ホックス、ナカノス建設工業㈱、西ノ洲環境㈱、大分マリンサービス㈱）で構成され、グループ全体で、従業員二千名程が従事しています。

創業以来地域社会への貢献を経営方針に掲げ、大分市はもちろん地元三佐鶴崎地区との交流を特に大切にしています。（この三年はコロナ禍で開催出来ておりませんが）毎年行われる「つるかい納涼夏祭り」は、従業員の家族はもちろん地域住民の皆さまを含め二千名近い方々に参加いただいている一大イベントとなっています。福利厚生面ではグループ従業員や家族も含めたレクリエーションの開催や、軟式野球部、サッカー部、陸上部、文化部といったサークル活動も活発に行われ、様々な「コミュニケーション」を大切に育む文化が根付いています。

現在弊社に在籍している四極会会員は十四名であり、通関士をはじめとした専門資格取得者も多く、それぞれがやりがいと責任をもって日々業務に取り組んでいます。私自身は令和二年の入社以来、人事部にて社会保険や給与計算、福利厚生など従業員サービス業務を担っており、ワークライフバランスを保ちながら充実した社会生活を送っています。

最後になりますが、地元に密着した総合物流業者として大分の発展へ微力ながら貢献できるよう日々邁進してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

社会人一年生のプロフィール

①所属部署または支店名 ②出身高校 ③ゼミ名
④大学でのクラブ、同好会 ⑤大学の思い出 ⑥趣味
⑦会社での抱負

株式会社オーイーシー
上杉 紗和子（大学70回）

①ITサービス事業部
②大分県立大分雄城台高等学校
③林ゼミ
（経済学部：林 勇貴 先生）
④所属なし
⑤友人と過ごした時間が一番の思い出です。一年生の時偶然意気投合した友人と、学校も休日も四年間を通してずっと一緒に過ごしました。出会いの面白さを実感すると共に、この縁を今後も大切にしたいと思います。
⑥ドラマ・映画鑑賞、描画
⑦まずは業務に慣れることを最優先に、会社の名に恥じない社員になりたいです。安心して仕事を任されお客様に信頼される、責任感のある社会人を目指します。

株式会社佐伯建設
犬山 達乃介（同）

①営業部 営業第二グループ
②大分県立大分上野丘高等学校
③加藤典生ゼミ
④バドミントンサークル
⑤友人と過ごした日々です。コロナ禍で様々なことに制限がありましたが、旅行やゼミ活動など楽しい大学生活を送ることができました。
⑥サッカー観戦・ライブ鑑賞・飼い猫と遊ぶこと・温泉
⑦入社してから日々の業務を行うことで精一杯で周りにご迷惑をかけてばかりですが、上司や先輩から多くのことを学び、会社に貢献できるよう業務に励みたいと思っています。

株式会社佐伯建設
牛迫 みなみ（同）

①管理部 経理財務グループ
②大分県立大分西高等学校
③城戸照子ゼミ
④バレーボールサークル
⑤サークル活動です。幹部を務めた二年時では、サークルのメンバーに楽しんでもらえるようキャンプやお花見などのイベントを企画しました。忘れられない思い出が多く残っています。
⑥カフェ巡り、ドライブ
⑦分からないことの連続で失敗することもたくさんありますが、何事にもチャレンジ精神を持って取り組み、一日でも早く先輩方のような一人前の社員となれるよう頑張りたいと思います。

新理事語る

衞藤　秀樹（大学28回）

令和四年六月二十五日に開催されました四極会大分支部総会にて理事に選任を頂きました。

私は昭和五十五年に大学を卒業し、大分銀行で四十年間勤務し退職後、ジェイリースに再就職して三年目となります。大分銀行在任中は転勤の度に各地の四極会の支部に入会し、多くの四極会の皆様と出会い、特に先輩方には公私共々大変良くして頂きました。当時の楽しい思い出が県内各地に残っております。縁あって入社したジェイリースでは本年四月から職域支部の支部長として人数は少ない支部ですが、若い会員が多く楽しくやらせて頂いています。

大学卒業以降を振り返ってみますと、地元大分で暮らす中、人や地域とのご縁に大変恵まれておりました。そして、これからは私を育ててくれた地域に何か恩返しをしたいという想いがあり、微力ながら大分支部のお役に立てればと思っております。

また、大学時代はラグビー部に所属しており、四年間仲間と共に旦野原の土と雑草のグラウンドで汗を流しました。令和元年からは大分大学ラグビー部（一九二二年創部）OB会（一九六七年発足）の第五代目会長を仰せつかっております。OB会を運営して感じますのが、八十代の先輩方始め会員が五〇〇名を超えた中、卒業年度が昭和、平成・令和との世代間のギャップです。育った環境や現在の環境が異なる中で仕方がないことかもしれませんが、それを繋げて世代間交流を活性化していくのは中間の世代である我々昭和後半世代（大学30回前後）の役目であると思います。

これから大分支部の理事として、高野新支部長の元、大分支部の活動が活性化し、ひいては大学、地域の発展に寄与できますように尽力してまいりたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

阿部　万寿夫（大学32回）（大学院8回）

令和四年六月二十五日に開催された四極会大分支部総会にて新たに理事に就任いたしました。

無事に創立一〇〇周年記念行事を終え、高野新支部長の下、気持ちも新たに次なるステージに挑むこの時期に理事を拝命することとなり、身の引き締まる思いです。

私、この三月に大分県庁を定年退職したばかりです。退職という人生の節目に際してこれまでを顧みた時、「自分は大した能力も無いのに、大勢の皆さんに助けられて、無事に定年まで勤めあげることが出来た。本当に運の良い幸せ者だ」と改めて思いました。

振り返ると、自分は特に「人の運」に恵まれたのだと思います。思えば困った時には必ず誰かが助けてくれました。県庁の先輩、同僚、部下は勿論。それ以上に、県庁外の異業種の友人から窮地を救っていただきました。自分は答えを見つけられなくても、答えやヒントを持っている友人から助け船を出して貰ってばかりでした。その意味では、人のネットワークに助けられた県庁時代でした。

事例は数え切れない程ありますが、記憶に新しいところでは、二〇一九年ラグビーワールドカップ時に海外から大挙して押し寄せた観戦客の宿泊・輸送・おもてなしの責任者だった時しかり、東京事務所長時代に事務所の移転先が見つからず途方に暮れていた時しかりです。

「今度ばかりは万事休す」と覚悟を決めた時でも、必ず最後の最後には、誰か彼かから救いの手を差し伸べていただき、難局を切り開くことが出来ました。本当に感謝に堪えません。

そのような想いから、退職に際して後輩たちに「人生で一番大切なのは人と人と繋がり。特に、仕事を超えた友人は大事。如何に自分に能力があっても人間一人の力なんて大したもんじゃない。周りの人々から力を借りてはじめていろんな課題がクリア出来る。そして、自分の力では何ともできないような本当に困った時、助けてくれるのは君の周りの友人だよ。自分の経験から言わせてもらうと、人生で一番大事なのは頼りになるネットワーク。次に自ら一歩を踏み出すフットワーク。そして最後に頼るのはハローワーク。この三つのワークが大事だよ」と話しているところです。

その一番大事なネットワークを築くために、特に四極会の皆さんには支部活動を通じて多くの異業種の先輩後輩と知り合って貰いたいと思っています。今後は理事として、そのためのお手伝いをしていきたいと考えています。

甚だ微力ではありますが、高野新支部長をお支えしながら、精一杯努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

俳句

和田　こうせい（大学2回）

群青を傾け走るヨットの帆

きよろり目の泥田にのぞく青蛙

五度の坂足どり重き夏日傘

小山田　熙光（大学10回）

電車内つり革掴む母親に
しがみつく子の微笑ましさよ

電車内皆スマホ見て静かなり
車内アナウンスのみぞ聞こゆる

友の妻病に臥すと聞くに付け
明日は我が身と家内気遣う

短歌

辻野　治弘（大学9回）

コロナ禍を旅割生かし天ケ瀬に
被災後二年復興半ばとか

天ケ瀬の露天の朝湯は至福なり
風は冷しく山深みどり

大声で好きな詩吟を繰り返す
妻の小言を聞き流しつつ

木山　広喜（大学10回）

軍艦島海底深き炭層は
太古樹林のタイムカプセル

ロシアにもウクライナにも晶子居て
君死に給うことなかれ君死に給うことなかれ

前線のウクライナ兵は木陰にて
パソコン操りてドローンを追えり

1F レストラン カテリーナ
Tel.097-532-8807（直通）

carpe diem「今を楽しむ」

ブラウンを基調とした落ち着いた雰囲気のレストラン。
ランチは新名物の「ローストビーフ」や「天麩羅」、
ディナーは季節ごとに楽しめる、飲み放題付き
スペシャルディナーをご用意しております。

2F 本格中国料理 李白
Tel.097-537-4613（直通）

享受歴史「歴史を楽しむ」

本場の味を受け継いだ大分を代表する本格中国料理の
名店。山海の幸、豊富な素材に格別な趣向を凝らし
悠久の時を経た贅なる料理の数々を心ゆくまで
お愉しみください。

会議・ご宴会
Tel.097-536-2778（直通）

会議やご宴会も承っております。
お気軽にご相談ください。

※お客様に安心してお過ごしいただけるよう感染症対策を徹底しております。

大分センチュリーホテル
〒870 0021 大分市府内町1丁目4番28号
TEL: 097-536-2777（代表）

谷　庄一郎（大学11回）

学舎の薄れる記憶重ねつゝ
旦野原の地の若さに浸る

霰打つモノトーンの中鳶舞ふ
孤高の翼は寒風に乗り

閉じこもり部屋の空気に流れなく
友の電話に外気を感ず

次森　久雄（大学23回）

久々に妻と二人の音楽会
老いの暮らしに浮き立つ時あり

静寂のホールに響く歌声や
独唱終えれば拍手万雷

終演も自席を立てず体内に
テノールの声の余韻残りて

川柳

糸永　文雄（大学2回）

賑やかに麓海辺に四極山
断捨離も繰り返してるセピア色
戦後派の野球小僧も九十坂

松本　幸男（大学5回）

ロシアにはシベリヤ抑留の悪夢
黄金の波にウクライナを想う
気がつけば卒寿間近かの吟醸酒

城元　保昭（大学7回）

老いてなお衰え知らぬ好奇心
老春の夢に余命が短すぎ
晩学の好機に燃える老いの自負

本多　廣（大学12回）

過疎の里往時を偲ぶ門構え
ひまわりの国が叫ぶウクライナ
名月にうさぎのロマン問うてみる

八鹿 TM

井上義彦（大11回）
熊谷光顕（大34回）
萱島周也（大53回）
清水優太朗（大60回）

時代の“おいしさ”を、あなたに。
八鹿酒造株式会社
〒879-4692 大分県玖珠郡九重町右田3364番地
TEL.0973-76-2888 FAX.0973-76-3071
ホームページ http://www.yatsushika.com

新しい革袋に新しい酒を

高橋 秀武（大学21回）

充実した5年間

六月末をもって事務局を退職しました。六十七歳で採用されて五年間、主に大分支部の事務を担当しました。なじみのない仕事で戸惑うことも多く、皆様にはご迷惑をおかけすることが多かったと思いますが、いつも温かい眼で見ていただき、ありがとうございました。思い返せば、私にとって得るところの多い年月でした。思いがけず世界が広がりました。

まず初めのころは、社会人一年生のような気持になって慣れない仕事に向かっていく新鮮な体験ができました。大げさにいえば、新しい自分の発見でした。この年になって若返りました。周りはみな先生、教わることばかりでした。

また、たくさんの同窓生との出会いがありました。私がそれまで過ごしてきた社会がいかに狭かったかを思い知らされました。いくつになっても生き生きと活動されている諸先輩、現役で活躍する中堅の方々。みなさんの行動やお人柄に触れて私の人生観も少し変わったように思います。人との交流という同窓会活動の最大のメリットを事務局で身をもって知りました。

これからの大分支部

事務局に入って何年か経つうちに、否応なしに四極会の今後に目を向けることも多くなりました。上野丘世代に比べて希薄な旦野原世代の同窓意識。本誌の名物コーナー「同期生鼎談」は毎年ひとつずつ回期が下がって今回は十八回生です。各回の鼎談を見るたびに、上野丘世代の絆の強さに心打たれます。しかし、これから四極会を支えるのは二十一回生以降の旦野原世代です。参加会員の中心が本年六月の経済学部一〇〇周年を機に一気に、いわば代替わりするのは必然です。本部の会長も大分支部長も若返りました。新しい革袋に盛られた新しい酒の時代です。

大分支部活動の充実度によって四極会の活力は決まります。大分支部がいかに会員の心をつかむことができるか。それは活動に参加した人が、参加してよかったと感じられるか否かにかかっていると思います。趣味の集まりである各親睦会の活動は、それぞれの幹事さんのお力で、どれも素晴らしいものです。ともに参加して楽しく、新しい知己もできて、それぞれの暮らしを豊かにする一こまになっています。世代間交流会も人の輪を広げる大切な役割を果たしています。喜びを実感できる支部活動が四極会の要です。

母校の学生への支援、これは大分支部というより四極会全体で取り組む問題でしょう。先輩として在学生に何らかの貢献ができれば、それも同窓会に参加する充実感につながります。年会費が有効に使われていることを会員に知ってもらわなければなりません。

大分支部が築いてきた様々な活動を維持し、あるいは取捨選択して、さらに今求められる活動を新たに開始する。その不断の模索が求められます。

最後に、大分支部の事務は一手に是永弘実さんが担ってくれています。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

本部人事

一般財団法人四極会新役員

この度、令和四年六月二十五日評議員会・支部長会議及び理事会が開催され、新たに会長、相談役、副会長が決まりました。

・会長（代表理事）
三浦 洋一
・相談役
髙井 道晴（大分支部長退任）
・副会長
髙野 浩子（大分支部長に就任）
・石川 公一前会長（代表理事）を顧問に選任

三浦新会長（大学24回）プロフィール

・昭和五十一年三月
大分大学 経済学部 卒業
・同年四月
㈱大分銀行 入行
・平成二十七年六月
㈱大分銀行 取締役副頭取
・平成二十八年六月
㈱大分カード 代表取締役社長
・令和元年六月
同社 代表取締役社長 退任
・令和二年四月
国立大学法人大分大学 入職
・同年九月
国立大学法人大分大学 学長補佐
現在に至る

支部だより

役員紹介

令和四年六月二十五日支部総会において選任された役員は次のとおりです。

なお、任期は、今回の総会終了時から二年後の総会終了時までの一期二年とし、再任を妨げないこととなっています。

新支部長

髙野　浩子

回　期　大学34回
出身地　別府市
職歴(現)　㈱美装管理　代表取締役社長
趣　味　読書、ワイン

副支部長

佐藤　辰夫

回　期　大学22回
出身地　大分市
職歴(元)　大成倉庫㈱常務取締役
趣　味　家庭菜園

副支部長

仲道　伸一

回　期　大学26回
出身地　大分市
職歴(元)　㈱トキハ常勤監査役
職歴(現)　ゴードービジネスマシン㈱
趣　味　Netflix鑑賞

新副支部長

山田　昌弘

回　期　大学43回
出身地　鹿児島市
職歴(元)　柳井電機工業㈱
職歴(現)　ソニー生命保険㈱
趣　味　息子の野球応援、ウォーキング

監　事

佐々木　信之

回　期　大学33回
出身地　大分市
職歴(現)　佐々木信之税理士事務所
趣　味　なし

理　事	橋本　一郎	経専27回	津行　孝充	大学26回
	植木　良彦	大学 5回	永田　哲朗	大学28回
	村尾　哲弘	大学 7回	衞藤　秀樹	大学28回
	柴田　悌範	大学 9回	梅野　雅子	大学32回
	加藤　英彦	大学14回	阿部万寿夫	大学32回
	安東　政義	大学16回	小河　裕宣	大学33回
	後藤　悌三	大学17回	池田　至郎	大学37回
	中村　　司	大学18回	坂元　宏行	大学39回
	渡邉　秀生	大学20回	渡部　浩史	大学46回
	池松　眞善	大学21回	赤峰　房枝	大学55回
	玉井　鉄之	大学25回	大村みな美	大学58回

相談役	山口　　勇	大学10回
	相良　　浩	大学12回
	髙井　道晴	大学21回
顧　問	宗　公一郎	大学13回
	帆足　三郎	大学13回
	橋本　　啓	大学18回

●表紙写真の言葉

出陣を待つ「府内戦紙」

園田　健治（大学14回）

去る八月初旬、大分七夕まつりの一行事として、三年振りに「府内戦紙」が行われた。

コロナの関係で出場した戦紙が六基と、以前に比べると少し淋しい感じはしたが、久し振りという事で、かなりの盛上がりを見せた様である。

コロナの前は二十基以上の戦紙が城址公園広場に集合し、盛大な出陣式が行われた後、一基ずつそれぞれのスタート位置に向かって出ていったのを昨日の事の様に思い出す。(写真はその頃のもの)

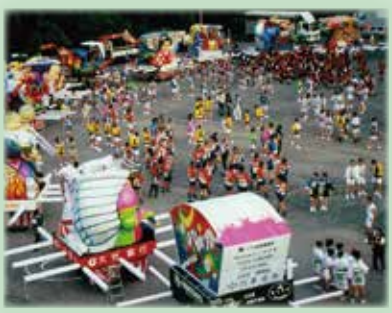
一日も早くコロナが終息し、又、数多くの戦紙が盛大に繰出せる日が来ることを、切に望んでいます。

(追記)

「ぱっちん」と言えば、小さい頃、運動場やお宮お寺の境内等で、よく遊んだものです。

四～五センチの紙ぱっちんを地面に向かって強く打ちつけ、相手のぱっちんをひっくり返して、勝った負けたと夕方遅くまで真剣にやっていました。他にはビー玉（ビーロン）、コマ回し、釘差し等、現在の子供達が知らないであろう遊びもやっていた。

あれから何十年。今は毎日が遊びの日々である。



編集後記

コロナ禍での開催ということで心配された百周年の記念事業も、一部の行事の中止はあったものの、盛大に開催されました。

百周年事業は一つの区切りであり、次の百年に向かっての出発点にならなければなりません。

大分支部は初めての女性支部長が誕生し、次の世紀に向かう準備が整いました。

（髙井 道晴　記）

編集委員

委員長　髙井　道晴（大学21回）
委　員　柴尾　敏夫（大学18回）
　　佐藤　浩一（大学24回）
　　小河　裕宣（大学33回）
　　住山　真美（大学47回）
事務局　是永　弘実（大学23回）

※(株)大分カードが発行する OkiDoki ポイントの付いている個人カードが対象です。

世界にひとつ。
あなたにひとつ。

大分銀行グループ
株式会社 大分カード
代表取締役社長 菊口 邦弘
(大学29回)

〒870-0035 大分市中央町2-9-22
TEL.097-537-4347
http://www.oitacard.co.jp/

詳しくはこちら
大分カード 検索

住生活のことなら
私どもにお任せください

売買

マンション・戸建・土地の売却、購入、買い替えに関するご相談、お手続きをサポート。
「中古物件購入＋リフォーム」のご相談も承ります。

賃貸管理

入居者募集から入居者管理、建物管理までさまざまな形でサポート。

空き家管理

留守宅や空き家の管理をサポート。入院やリハビリ、転勤や相続などでご自宅を管理することが難しくなった方へ最適なサービスをご提供いたします。

相続サポート

相続対策や資産継承をサポート。事前の対策から相続後の対応まで、円満でスムーズな相続を実現するためのサポートをさせていただきます。

不動産の総合コーディネーター
BUNGO (株)豊後企画集団
賃貸住宅管理業者 国土交通大臣(2)第94号　宅地建物取引業 大分県知事(12)第1196号

〒870-0007 大分市王子南町5番6号
TEL. 097-537-4975
(本社代表)

豊後企画 検索